

対する憧れ、尊敬を感じたといえます。乗務バックからコート、乗務靴まで、会社から支給され、研修も行き届き、成人式の様子を始め頻りにマスコミにも取り上げられるはとバス。やはり同業の方から見れば、そうした対象の会社だったと思います。だからこそ、その名を汚さぬよう、はとバスは常にナンバーワンいやオンリーワンたれ、とドライバーさんや先輩ガイドさんからも、教育を受けた事が今でも誇りだと感じるとのことです。奢らず、努力を怠らない、この精神は現在もそしてこれからも、はとバス全社員が守り続けて戴きたいものです。最後に昭和の母は凄かった話題をご紹介します。長年ガイドを勤め、間もなく退社が決まった最後のお正月、入社以来初めてふるさと北海道でクリスマスとお正月を過ごすため帰省していたそうです。のんびり自宅で過ごしていた年末、突然ガイド課の針生課長から電話が架かつてきた!!「申し訳ないが、お正月の奥多摩七福神

コースのガイドさんがいない。悪いけれど、出勤してくれないか」という、仰天する内容。当然「それは無理ですよ」このお正月シーズンに東京に行く飛行機など取れません」と受け答えしていると、隣にいたお母さんが、電話を奪い取り「行かせます、お任せください!!」と言いつつたそうです。娘に向かい「長年お世話になったはとバスに最後ののご奉公をしないでどうする。なんとしても行きなさい」と説き伏せられたそうです。新年早々東京行のチケットを何とか取り、出社したそうですが、お母さんのこの心意気、なんともすごいですね。その時はお母さんに反感を覚えました。自らが母親になり、その時の仕事への責任。お世話になった方への感謝の大切さが理解でき、我が子にも同じ教育をして育てたそうです。

座談会の総括  
参加いただいた全員の方に言えることは、とにかく元気で話に淀みがなく、活舌が良いことです。お話は止まることなく、ここには書ききれないエピソードを伺いました。どれも、はとバス時代の楽しかった事、はとバスに入社出来てガイドを経験出来て本当に良かったという、思いに満ちていました。そして、感動したのはガイドさんを辞め、他の仕事に就いたり、母親になつても自分から率先して何でもやりなさいと常に先輩から教わった(江花先生から、気働きのできる人間になりなさいと言われたことが今も人生の指針です)等の言葉がどんどん出てくることです。青春時代の最も多感な時期を、はとバスでガイドとして過ごし、自らの生き方を学び、今日までそれを実践してきた彼女たち……

座談会を終えて  
11名のガイドさんのお話を聞いていると、まーあ楽しい話が出てくる、出てくる。とはいえ半世紀まえのお話ですので、当然うる覚えのことも多々あり、はとバスの年史を見ながら、何とか纏めてみました。この間の期間で延べ10000人に近いガイドさんが入社したでしょうから、見かた、感じ方は様々だったと思いますが、間違いなく言える事は、鳩友会加入のガイドさん全員が、はとバスのガイドになって、うれしかった・楽しかったという感想をお持ちだと思えます。私のガイド時代はこの様だった、こんなエピソードがあるという方は、是非事務局までお手紙をください(できればメールで戴ければ幸いです)最後までお読みいただき有り難うございました。

編集・文責 門村輝夫

**はとバスグループ鳩友会  
2023年新年懇親会開催のお知らせ**

来る2023年1月29日(日曜日)にシンフォニーのランチクルーズにて2023年新年懇親会を開催いたします。  
奮ってご参加ください、役員一同お待ちしております。

詳しい要領は同封のパンフレットをご覧ください。

**鳩友会専用のホームページ  
が開設されました!**

鳩友会活動をさらに便利に!! さらに楽しく!!

11月13日から鳩友会専用のホームページが開設されました。お得な情報や緊急のお知らせを常に更新していきたいと思っておりますので、是非ご利用ください。

ホームページの開設の方法や内容は、同封のパンフレットをご覧ください。

**訃報**

**津久井 幸夫さん**  
(つくい ゆきお)  
2022年10月20日ご逝去  
(享年83歳)

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

**編集子ヴォイス**

長い間、コロナ禍の影響で皆様と中々会えず寂しい思いをして、やっと11/13にシンフォニーで懇親会が開催され、久しぶりにお逢いでき話が尽きず、楽しかったです。

設立以来理事を務めて来ましたが、鳩友会通信も今回で46号となり、マンネリを感じていましたが門村さん、本田さんが編集員に加わり、新企画をどんどん提案してくれて、面白い記事が増えてきたと思います。

今回の座談会いかがだったでしょうか?品川チーム、平和を設けたのですが、まあ声だけ聴けば二十代の方のように皆さんお喋りが止まらず纏めるのに苦労しましたが、あの時代を感じてもらえたら、うれしいです。

(森内喜美子 記)